

佐々木清治先生の御逝去を悼む

歴史地理学会名誉会員、佐々木清治先生は1991年10月22日、腎不全のため旅行先の米子市博愛病院で逝去された。享年93才、謹んで哀悼の意を捧げる。

先生は東京帝国大学理学部地質学科に学ばれ、1926年3月、同大学理学部地質学科を卒業、静岡県浜松師範学校に勤務された。同師範学校在職中、地理学の研究のかたわら後進の育成にあたりられ、地理教育の普及に尽力された。また、県立豆陽中学（現下田北高）や県立榛原高等女学校（現榛原高）の校長を歴任された。

1950年4月、静岡大学教育学部、つづいて1962年、同大学文理学部にうつられた。1963年4月の静岡大学停年退官まで、地理学教室の主任教授として、経済地理学、地誌学、歴史地理学などに力を入れられた。1963年5月には、静岡大学から名誉教授の称号を授与された。退官後は静岡英和女学院短大に勤務され、人文地理学を講義された。

先生は37年もの長きにわたり、学問研究や教育指導による業績をあげられ、多くの有為な教育者を世に送り出した。その功績に対して1971年4月勲三等旭日中綬章が贈られた。また、社会活動として静岡家庭裁判所調停委員や静岡市文化財審議委員の要職も歴任され、地域社会にも大きく貢献された。

先生は、歴史地理学会の評議員もなされ、大会や例会には熱心に出席されていた。そして学会誌には、静岡県下の新田集落や助郷村、宿場町などの研究論文を寄稿された。とくに1976年「駿河の旗本領」（歴史地理学会会報87号）や同年「遠駿地方における旗本知行地の地域構造と機能」（歴史地理学会会報87号）、1984年「宿場町と助郷村との関係」（歴史地理学紀要26）などは、先生の晩年の歴史地理学研究成果でもある。

そのほかに1949年以降、「新田集落の研究（第一報）」（地理学評論22巻4・5号）をはじめ1955年にかけて「新田集落をめぐる地域課題」、1957年「一



般助郷村」、1963年「特殊助郷村」などの論文が、「地理学評論」「人文地理」「新地理」などの学会誌に掲載されている。これら多くの研究業績によって、先生は歴史地理学者として知られた。そのフィールドは遠駿地域が中心であった。

先生は古文書や地籍図、村絵図、統計資料などの解説、および聞き取り調査など、ご自身の足で駆け回られ、独自の取材をなされた。そして多くの資料を駆使して、地人相関の理念にもとづく解明を試みられたのである、先生は、歴史地理学の課題、とくに新田集落や助郷村をめぐる諸問題に対して生涯研究意欲を持ち続けられた。最晩年は「旗本知行地」という新しいテーマにとり組まれていた。そして先生は、時間の経過などおこまいなしで、我々に新田集落や助郷村・宿場町などについて話された。研究に情熱をもち続けられた先生の真摯なお姿は、今なお目に焼きついている。共に調査に歩いた日々がなつかしく思い出される。

ここに御生前のご厚情に深謝申しあげるとともに先生の御冥福を心からお祈り申しあげる。

合掌

（細井淳志郎）